

伊豆大島

○火山活動度レベル（平成 18 年 2 月）

1（静穏な火山活動）

○概況（平成 18 年 2 月）

長期的なマグマの注入によると考えられる島全体の膨脹傾向が継続しています。4～5日に地震が一時的にやや増加しましたが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しました。

○噴煙の状況

大島北西外輪に設置した遠望カメラでは、三原山火口からの噴煙は観測されませんでした（図 2）。

○地震及び微動の発生状況

4～5日に、島の東部の深さ約 2～3km を震源とする微小な地震がややまとまって発生しました（4日 58 回、5日 14 回）。最大地震は 4日 15 時 21 分に発生した M（マグニチュード）1.4（暫定）でした。島内の震度計で震度 1 以上は観測されませんでした。なお、地震の発生に際して、その他の観測データに特段の変化はありませんでした。その後は落ち着いた状態に戻っています。この付近でまとまって地震が発生したのは、最近では 2004 年 7 月以来です。（図 2、図 3）

○地殻変動の状況

G P S 連続観測および光波距離計¹⁾による観測では、山頂カルデラを挟む 2 つの基線（図 4 - ①～②）で現在も島全体の膨脹を示すわずかな伸びの傾向が続いています。一方、島の北西側の基線（図 4 - ③～⑤）では、2000 年頃から長期的な伸びの傾向が停滞しています。

1) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨脹や収縮による距離の変化を観測しています



図 1 三原山火口の状況（2006 年 2 月 6 日、南南東側火口縁から撮影）

※この資料は気象庁のほか、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

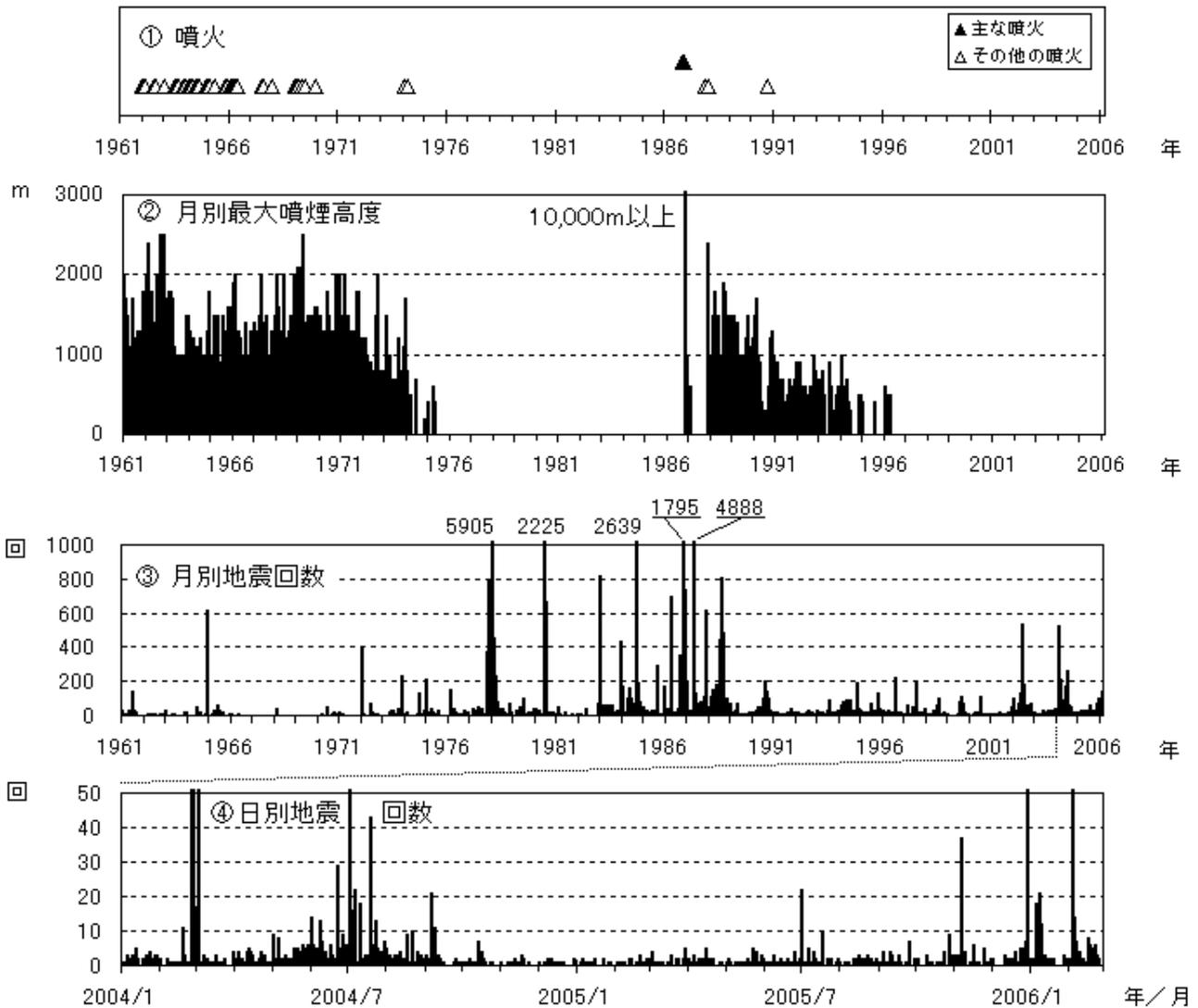


図2 伊豆大島 火山活動経過図

①～③：1961年1月～2006年2月

④：2004年1月1日～2006年2月28日

注) 地震回数には、「1978年伊豆大島近海地震」の余震活動など、伊豆大島周辺の構造性地震も含まれています。

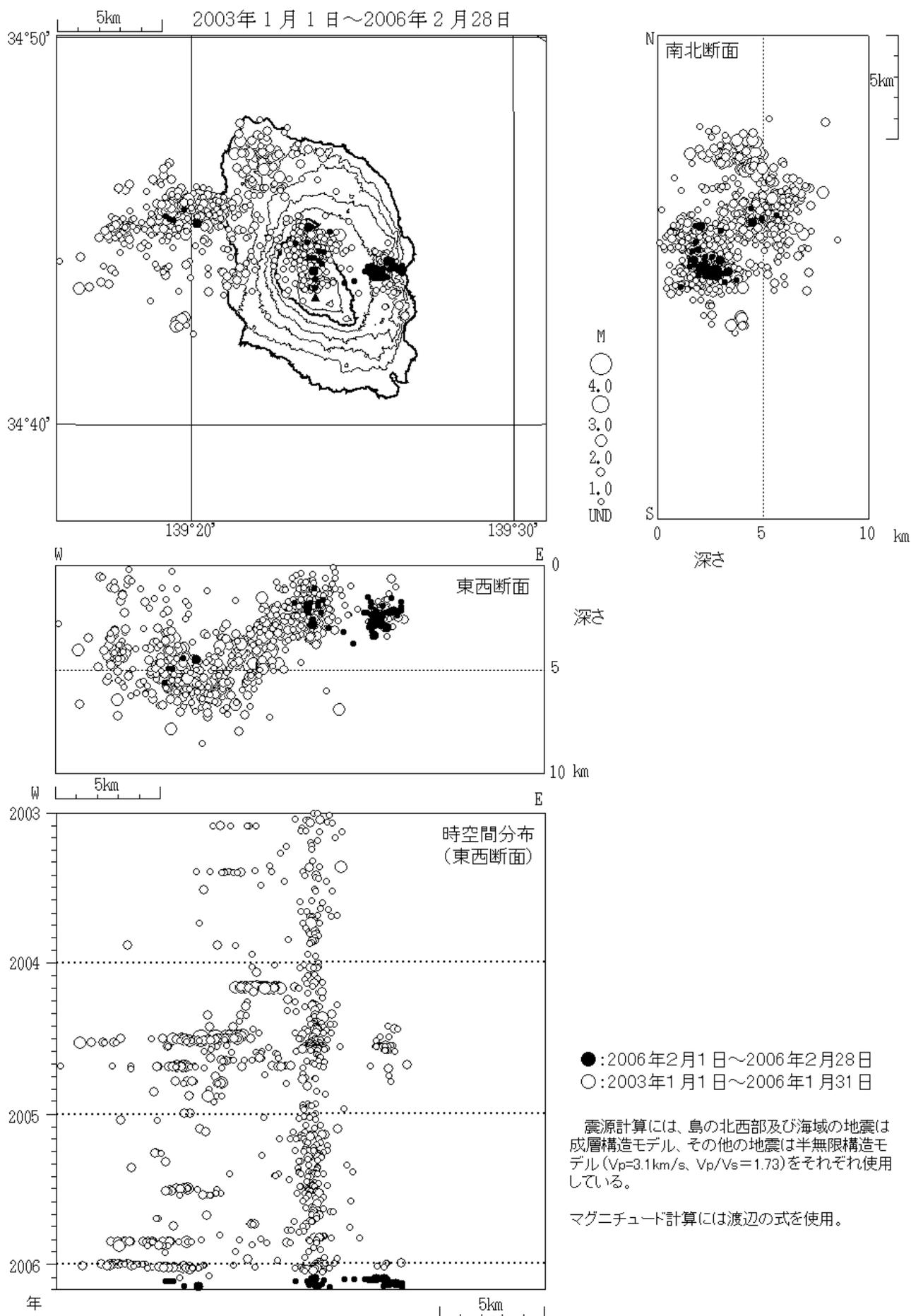


図3※ 伊豆大島 震源分布(2003年1月1日～2006年2月28日)

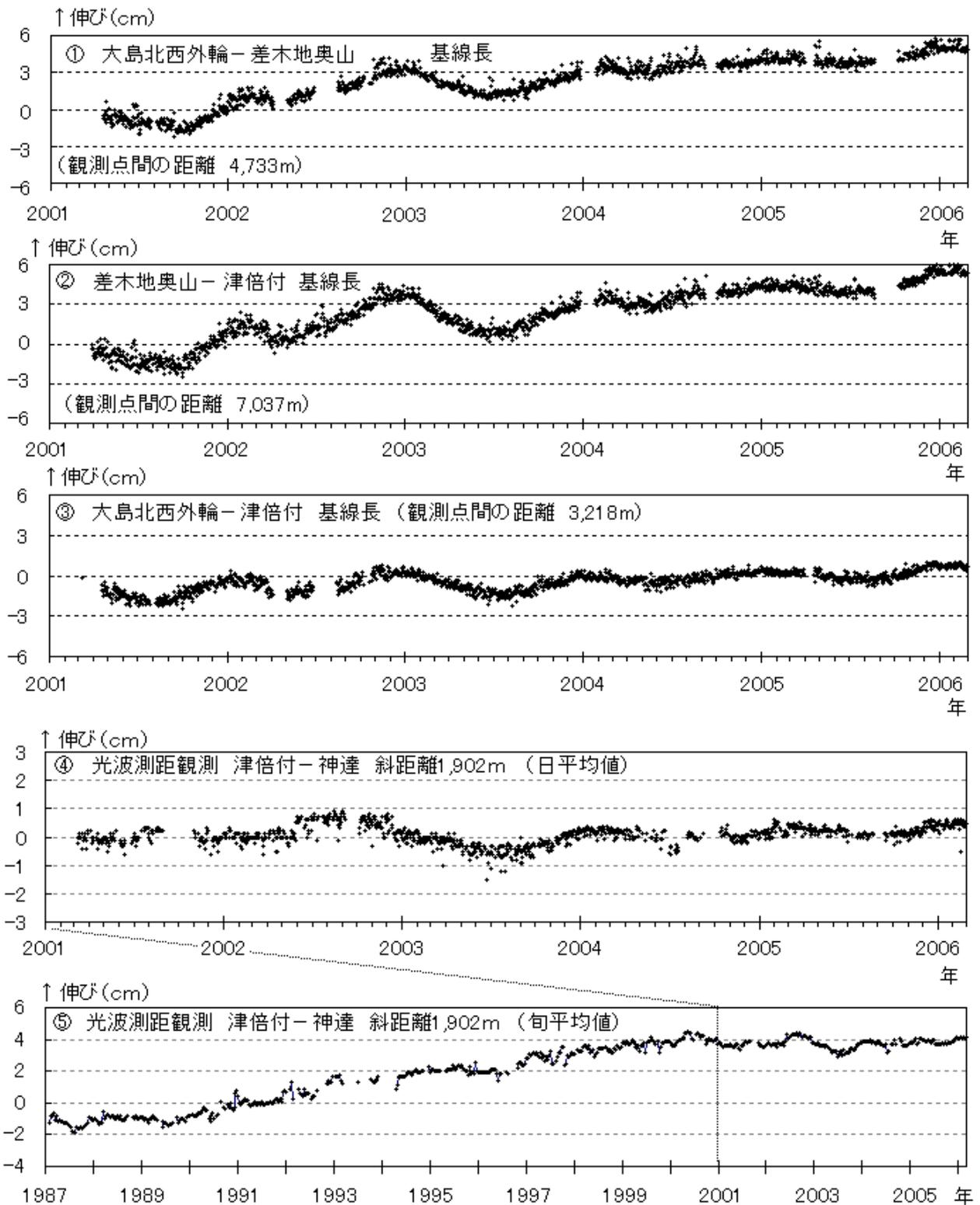


図4 伊豆大島 GPS連続観測による基線長変化、および光波距離計による津倍付-神達間の斜距離変化 (①~③は図5のGPS基線①~③に対応しています)

- ①~③ : GPS連続観測 日平均値 (2001年3月7日~2006年2月28日)
- ④ : 光波測距観測 日平均値 (2001年3月1日~2006年2月28日)
- ⑤ : 光波測距観測 旬平均値 (1987年1月~2006年2月)

○観測点情報

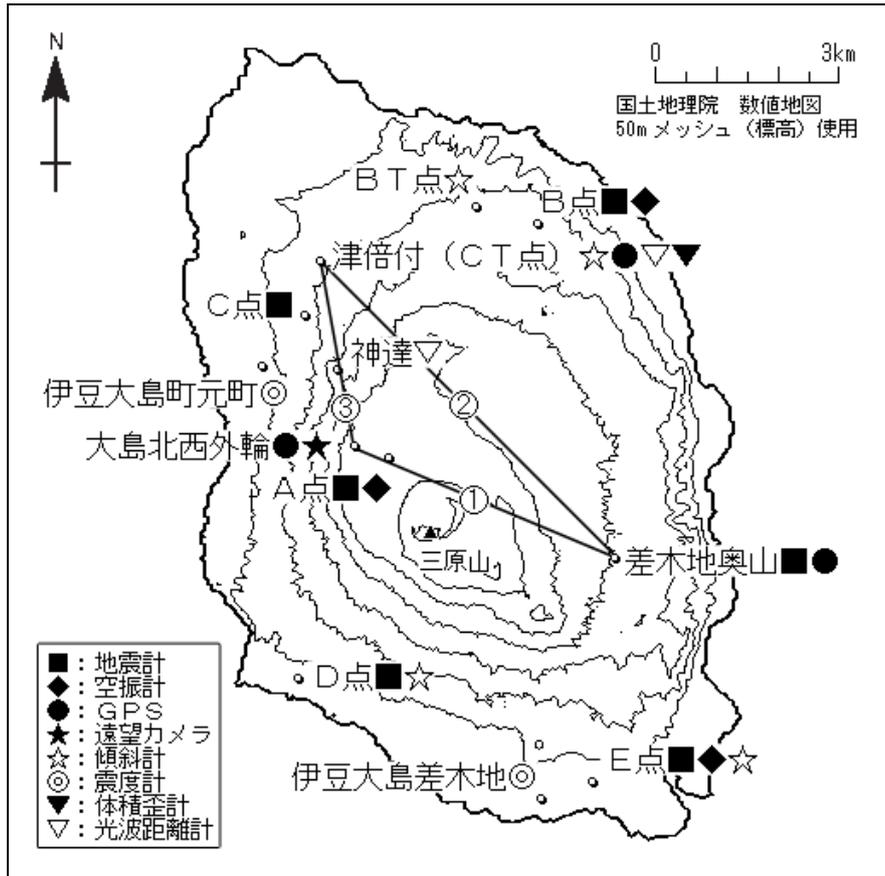


図5 伊豆大島 気象庁の観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)